



小郡市立小郡中学校

令和8年6月4日

小郡中学校だより 第263号

校長 山本 拓



学校教育目標 ～自ら学び 共に高め合う 未来への展望を開く子どもの育成～

〈人権を考える日〉 自分が発する言葉について考える



人権学習の様子



本校では「自分や周りの人の人権について考え、よりよい生活を送るためには、どうすればよいのかを考える日」〈人権を考える日〉を設定し、人権学習を行っています。5月22日(金)にも全校で人権学習を行いました。「言葉や文字」は、人を励ましたり、勇気づけたり、差別をなくすためのものであって、だれかを蔑んだり、傷つけるものではありません。人は、自分のことだけを考えてしまいがちですが、生徒の皆さんには、差別を見抜き、差別をなくそうとする心をもち、それを形にして表してほしいと思います。

皆さんには、人の悩み・心配・痛みを想像しようとしなない人、想像できない人には、なあってほしくありません。自分の行いや発言で誰かを苦しめていたり、誰かにきつい思いをさせていたりしているとしたら、とても悲しいことです。「この言葉を発することで、この行為をすることで、相手は、周りの人たちは、どんな気持ちになるだろう、そして、自分はどうなるだろう。」と想像できる人になりましょう。

皆さんは、「自分と他者の人権を守るための実践行動」についてこれからも人権学習を通して、深く考えていきましょう。

〈チューター小郡中開講式〉 学び場支援を今年度もありがとうございます



チューターの様子



今年度もたくさんの希望者がチューター小郡中の開講式に参加してくれました。チューターという取組は、当たり前にあるものではありません。小郡中の皆さんの中で、勉強をしたいと思った人が、勉強できる環境を2008年の4月(今から18年前)からつくってもらっています。これをチューター小郡中といいます。チューターには、皆さんの将来が豊かで自分らしく生きるための「基

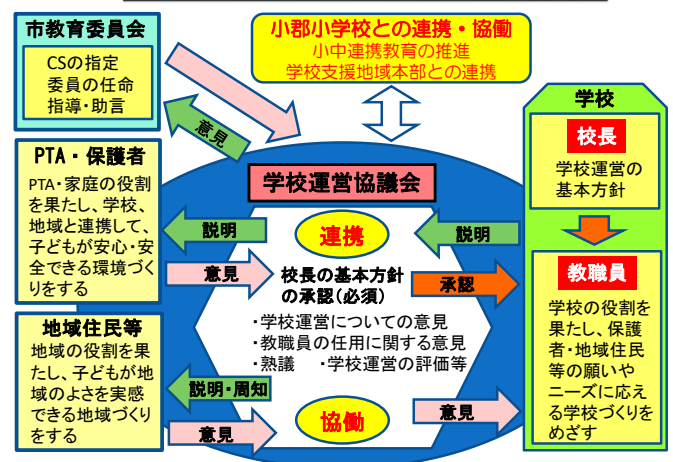
礎・基本の学力」と「自学自習の力」を身につけることと、学びあい・支えあう仲間づくりを支援するという目的があります。地域の方や、時には大学生の方に皆さんの学習を見守り、支援していただきます。このチューター、すなわち「学び場」支援事業は、学校・家庭・地域が一体となってみなさんを支えていく「人権のまちづくり」につながる取組です。毎年の教育条件整備に関する署名活動でこの取組が成り立っています。子どもたちのために署名活動にご協力いただいた、地域や保護者の皆様にお礼を申し上げます。今年度もご支援・ご指導していただく小郡市教育委員会、地域の方々、関わっていただく先生方に感謝したいと思います。これからも参加する生徒の皆さん、チューターを有意義な時間にしてください。

「コミュニティ・スクール(学校運営協議会)」を今年度も開催していきます

本校は、令和元年度から「コミュニティ・スクール(学校運営協議会)」を導入しています。これは、保護者や地域の方が、合議制の機関となる「学校運営協議会」を通じて、学校運営に参画し、学校・家庭・地域が一体となってよりよい教育の実現をめざすことを目的に地域に開かれた地域に支えられる学校づくりの仕組みとして制度化されているものです。

学校運営協議会のメンバーは、学校教職員を含めた10名で構成されており、小郡中の応援団として、毎回学校のために熟議を繰り返しています。5月12日(火)に開催された、令和8年度第1回学校運委協議会では、今年度一年間の内容を確認し、真剣な議論が繰り広げられました。

コミュニティ・スクールの組織・関連図



「心配」は素敵な言葉

「大丈夫？心配です」と言われたら、「自分は、心配をかけているのかな。」と否定的に捉えてしまいがちです。

「心配」の意味を調べると、確かに「①あれこれ考えて悩むこと。気がかり。不安。」とありますが、もう一つ「②心配り。気づかい。」という意味もありました。

「心配」は、「心配り(こころくばり)」を音読みした語だそうです。すなわち、相手に気をかけ、気遣うがもともとの意味で、「気にかける」ことから、気がかり、不安、モヤモヤする気持ちなどを表すようになったのでしょう。このことを知っていると、例えば「あなたのことが心配です。」は、「あなたのことを気にかけています。」と捉えることができ、言われた人も何となくほっとするのではないでしょうか。

学校生活では、多くの子どもたちが毎日様々な思いで過ごしていますが、表面的には分からない不安もあるかもしれません。これからはずっと、先生たちと保護者の皆さんとで、子どもたちのことを大切に思い、心を配り、気かけ、「心配して」いきましよう。

